

令和6年度

小樽地区の巻

事務局 小樽市立幸小学校



小樽雪あかりの路

小樽市小学校長会は、市内17校（内小中併置校1校）の校長で組織されている。今年度は、転入1名、採用4名の新会員を迎え、4月9日に総会を開催し、活動方針や予算を決定するとともに、新年度の役員を選出した。

I 本年度の活動方針

小樽市小学校長会は、小樽市教育推進計画の基本理念である「主体的に学び 小樽の未来を創る心豊かな人づくり」の実現を目指すため、校長としての使命と責任の重要性を自覚し、職能の向上に努めるとともに、小樽市民の負託と家庭・地域の信頼に応えることのできる小学校教育の推進及び小樽市の教育振興に寄与することを目指して活動している。

これまで本会は、小学校長会重点施策と小樽市校長会重点目標の実現を活動の中心に据え、自走する学校づくりを進めながら、小樽市中学校長会と連携し組織的に取り組み、成果を上げてきた。とりわけ昨年度は、「校内組織の機能化」「GIGAスクール構想の実現」「小中一貫教育の推進」「人材育成」「業務改善」に焦点を当て、各ブロックで現状分析するとともに目標や方策を共有し、足並み揃えて学校運営の改善・強化が図られたことは大きな成果である。また、通知表の改定に向けて、小学校長会が協議・検討し、その方向性を見いだすこともできた。

一方、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた「新たな教師の学びの姿」の実現や、「教師を取り巻く環境整備について緊急的

に取り組むべき施策（提言）」を受けた学校改善については、十分な取組ができなかった。

これらの課題を解決するためには、教育DXの推進が不可欠である。教育DXとは単にアナログをデジタル化して業務改善や効率化を図ることに留まらず、最新のデジタルテクノロジーを活用して、教職員の業務や組織、プロセス、カリキュラムや学習の在り方など学校文化を革新し、『これからの時代に対応した学校教育』の確立を目指している。私たち校長には、時代に取り残されることなく、視野を広げ、新たな発想が求められていると言える。

そこで、本会では、今年度全ての小学校で、教育ビジョンに『教育DXの推進』を位置付け、予測困難な時代を生きていく子どもたちに必要な資質・能力を育むために、学び続ける小学校長会としての本領を発揮し、本市における『これからの時代に対応した学校教育』の確立を目指すこととする。

II 活動の重点

1 重点施策

- 教育DXの推進による『これからの時代に対応した学校教育』の確立

2 活動内容

- ① 校長としてその責務を自覚し、学校経営の充実に資する研究活動の推進と研修の充実を図り、学校経営の専門職としての職能の向上に努める。

職能向上

- ② 教育関係機関及び中学校長会との密接な連携を図り、総力を結集して本会の重点施策に取り組むとともに、本市の教育課題の解決にあたる。

連携

- ③ これまでの当たり前から脱却し、最新のデジタルテクノロジーを活用して、『自走へのマネジメント』（「令和の日本型学校教育」「生かし高める人材育成」「組織的な校務の推進」）を強化・革新するとともに、学校における働き方改革を一層推進する。

教育DX

- ④ 全連小研究課題「健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方」に向けた共同研究を推進し、道小空知・岩見沢大会に向けた研究体制を構築する。

研究

- ⑤ 教頭・主幹教諭・教務主任・研究部長等の学校マネジメント能力を高める研修の機会を充実させ、次世代を担うスクールリーダーの育成を図る。

人材育成

- ⑥ 安心・安全な学校づくりを目指し、関係機関との連携や情報共有に努め、危機管理体制の整備・充実を図る。

危機管理

Ⅲ 各部の活動方針

1 組織部

子どもが安心して日常生活を送ることのできる安全な環境をつくるため小・中・高校及び関係諸団体などとの連携を密にし、子どもたちの健全育成並びに教育環境の充実や学校経営の改善に資する業務推進に努める。

2 研修部

全連小及び道小の教育研究大会に関する活動や学校経営に関わる研修活動の推進を通して、校長としての一層の職能向上を図る。

3 厚生部

小樽市小学校長会の方針に基づき、学校給食及び学校保健・安全の向上を図るとともに、会員及び教職員の福利厚生者の充実と親睦に努める。

Ⅳ 役員

会長	遠藤隆典	(稲穂小)
副会長	及川年彦	(長橋小)
	篠崎大作	(銭函小)
監査	堀智行	(奥沢小)
	若林晋	(花園小)
事務局長	草島拓也	(幸小)
事務局次長・会計	脇本麻友美	(望洋台小)
組織部長	堀智行	(奥沢小)
研究部長	伏間公洋	(山の手小)
厚生部長	若林晋	(花園小)